



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

自著を語る



編著 小河妙子・
 斉藤由里・大澤香織
 発行 金剛出版
 A5判 / 208頁
 定価 本体 2,200円＋税
 発行年月 2010年9月

おがわ たえこ
 東海学院大学人間関係学部心理学科准教授。専門は認知心理学（記憶、認知、言語情報処理）。『漸次的マスク解除課題を用いた漢字二字熟語の認知における近傍語群の活性化過程に関する検討』（共著、基礎心理学研究）など論文多数。

心理学実験を学ぼう！

小河妙子

心理学を学ぶ学生にとって、心理学実験は基礎的な科目です。筆者は実験実習を担当して数年になりますが、既存の教科書や資料では、レポート作成を難しく感じる学生が年々増えている現状を受け、今の多様な学生に対応できる教科書が必要だと感じるようになりました。

本書では、初学者がつまずきやすい点を考慮し、各章をレポートのひな型にしました。丸写しにせず、自分で文献を調べ考えて序論や考察のストーリーを書けるように、重要ポイントには課題を出し、ひな型に沿って課題を埋めていく

形にしました。また、作成すべき図表を視覚的に理解できるように、実際のデータをもとに全章に図表の例を掲載しました。付録として、本書の実験に必要な統計処理マニュアルを掲載し、ホームページで実験プログラムや動物実験の動画記録等を公開しています。

実験実習では、古典的テーマから新しいテーマまで、さまざまな領域に渡り、10個程度の実験が行われます。全テーマの実験が終わる頃には、達成感とともに「心理学実験は楽しい！」と多くの学生に思ってもらえたら幸いです。



編著 河原純一郎・
 坂上貴之
 発行 勁草書房
 四六判 / 280頁
 定価 本体 2,700円＋税
 発行年月 2010年11月

かわはら じゅんいちろう
 産業技術総合研究所ヒューマンライフテクノロジー研究部門主任研究員。専門は認知心理学。著書はほかに、『イラストレクチャー 認知神経科学』（分担執筆、オーム社）、『感覚知覚ハンドブック増補版』（分担執筆、誠信書房）など。

心理学の実験倫理

「被験者」実験の現状と展望

河原純一郎

大学で教えるAさんは、自分の研究室の学生に実験参加を頼もうと考えました。大学院生のBさんは、サークルの後輩に参加を頼んでみることにしました。このようにして実験参加を依頼することには心理学の実験倫理上、妥当なことでしょうか？もしそうでないならば、何が問題なのでしょう。

本書は、誰もが重要性を認識するけれど、とっつきにくいテーマである実験倫理について解説しました。本書は医学倫理の既存書物とは異なり、日本の実験系心理学にかかわる人に向けた初めての

のです。初めに、倫理原則の重要な点と実践の手立てを論じます。次に、北米の大学で倫理原則が実験参加者プールというシステムの中で実現されている例、日本の知覚発達・実験社会心理学研究室での実践例、および著者による調査結果を報告します。最後に、より良い実験実施のためのQ&A集を設けています（冒頭のケースもその一例）。倫理の実践は安全な心理実験の実施に貢献します。大学、研究所、企業などで人間を対象とした心理実験にかかわる人や学部教育用に本書をお勧めします。



アメリカこころの臨床ツアー

アメリカ：精神医学・心理学臨床施設の紹介

丹野義彦

アメリカ7都市の大学をめぐる旅行ガイドブックです。ニューヨークでは精神分析の栄枯盛衰をたどり、ボストンでは日本の新制大学のモデルとなったハーバード大学を訪ねます。ワシントンDCではアメリカ心理学会の本部ビルを見て「日本の心理学会とは2桁の違いだ」と感嘆し、フィラデルフィアでは臨床心理学のルーツであり認知行動療法の最前線であるペンシルバニア大学を訪ねます。取り上げた大学は30校。大学のキャンパス歩きはとても楽しいことがわかっていただけでしょう。

う。また、①認知行動療法、②エビデンスにもとづく実践、③心理学会のアンブレラ化といったアメリカの心理学界の最先端の動きを紹介するようにも心がけました。アメリカの心理学の現状や歴史などの入門書としても使えるのではないのでしょうか。観光や学会や留学でアメリカを訪れる方に手に取っていただければ幸いです。なお、私のホームページでは、本書と前著『ロンドンこころの臨床ツアー』で紹介した写真や施設のリンクを公開しています。「アメリカを10倍楽しむ」でご検索ください。



著 丹野義彦
発行 星和書店
四六判 / 248 頁
定価 本体 1,700 円 + 税
発行年月 2010 年 10 月

たんの よしひこ
東京大学総合文化研究科教授。専門は、臨床心理学、異常心理学。著書はほかに、『ロンドンこころの臨床ツアー』（単著、星和書店）、『認知行動アプローチと臨床心理学』（単著、金剛出版）、『叢書・実証にもとづく臨床心理学』（共編著、東京大学出版会）、『臨床と性格の心理学』（共著、岩波書店）、『認知行動療法 100 のポイント』（共訳、金剛出版）など。

認知心理学

箱田裕司

認知心理学の誕生から 40、50 年は経つ。今は次の新たな心理学の誕生を待つ革命前夜なのか？ 本書を読めばその答えはおのずと明らかになるであろう。

今日、認知心理学者は認知課題実行中の脳活動を見ることができるようになった。また私たちの記憶や注意といった知的な働きが感情の影響を受けることや感情の喚起には認知的評価が密接に関係しているといったように、知的な働きと感情には密接な関係があることがわかってきた。また、そもそも人間の認知の働きが何のための

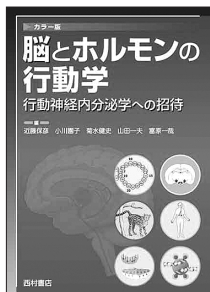
働きなのかを考えると進化心理学的視点が必要であることがわかってきた。このようなことを草創期の認知心理学者の誰が予想したであろうか？

このように認知心理学は周辺諸科学の影響を受けながら絶え間ない変革がなされてきた結果、初期の認知心理学とは様子が一変してしまった。今後、革命が起こり「認知心理学」の基本的前提が根底から覆されることはおそくないであろう。内なる世界が謎である限り、認知心理学者は歩みを止めることはない。



著 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋
発行 有斐閣
A5 判 / 538 頁
定価 本体 3,400 円 + 税
発行年月 2010 年 6 月

はこだ ゆうじ
九州大学大学院人間環境学研究科教授。専門は認知心理学（記憶、注意）。著書はほかに、『嘘とだましの心理学』（共編著、有斐閣）、『認知の個人差（現代の認知心理学 第7巻）』（編著、北大路書房）、『認知科学のフロンティア I, II, III』（編、サイエンス社）、『知性と感性の心理学』（編著、福村出版）など。



編著 近藤保彦・小川園子・
 菊水健史・山田一夫・富原一哉
 発行 西村書店
 B5判 / 288頁 オールカラー
 定価 本体 4,000円＋税
 発行年月 2010年7月

こんどう やすひこ
 帝京科学大学生命環境学部アマルサイエンス学科准教授。専門は動物心理学、神経内分泌学。著書はほかに、『性を司る脳とホルモン』（分担執筆、コロナ社）、『脳の性分化』（分担執筆、裳華房）、『脳とこころのプライマリケア』（分担執筆、シナジー）など。

脳とホルモンの行動学

行動神経内分泌学への招待

近藤保彦

最近の心理学者の神経科学への進出はめざましいものがあります。しかし残念なことに、そのほとんどは認知、学習、記憶の分野に集中しています。心の問題はそれらだけでは語りつくすことはできません。それら以外にも心理学者がかかわるべき脳の研究はたくさんあります。本書は、わたしたちの日常生活で最も基本となる行動、すなわち愛着、恋、セックス、子育てといった社会行動、感情や食欲、睡眠、ストレスといった個体維持行動の神経生理学的メカニズムについて概説した教科書としてつくりました。

これまでの心理学書でホルモンに関する説明を探すと、ストレスなどとの関連でわずかに扱われているにすぎないことが多いようです。しかし、本書の目次を開いていただくとホルモンがいかに多岐にわたって行動に影響しているかがわかります。本書は、生理心理学や動物行動の研究者だけでなく、社会心理学や臨床心理学といった人間関係に興味をもたれる方にも、それらの行動に内在する生物学的なバックグラウンドを理解していただくための参考書となると確信しております。



編著 菊池章夫・二宮克美・
 堀毛一也・斎藤耕二
 発行 川島書店
 A5判 / 456頁
 定価 本体 4,200円＋税
 発行年月 2010年11月

きくち あきお
 現在はフリー。専門は社会心理学。著書はほかに、『自己意識的感情の心理学』（共編著、北大路書房）、『共感と道徳性の発達心理学』（共訳、川島書店）、『社会的スキルの心理学』（共編著、川島書店）、『社会の理論』（共編著、有斐閣）など。

社会化の心理学／ハンドブック

人間形成への多様な接近

菊池章夫

これまで2回（1974、1990年）出版された同様のタイトルのハンドブックの3冊目である。6部・27章から構成され、社会化研究の現状と今後が展望できる内容となっている。Ⅰ社会化の問題（社会化再考/進化心理/行動遺伝学/発達課題再見）では、社会化概念の再検討が、Ⅱライフステージとの関連（乳児の社会的能力/中学生期/問題行動/非婚の時代/成人の意味/高齢期の社会化）では、それぞれのステージごとの課題の分析が、Ⅲ社会化のエージェント（子育て支援/友人関係/学校の課題

/CMCによる社会化/地域社会）では、社会化の環境条件についての考察が試みられている。Ⅳ認知と判断の社会化（言語的的社会化/well-beingの規定因/ステレオタイプ/向社会的判断）・Ⅴ感情の社会化（共感/恥と罪悪感/宗教性/感情制御）・Ⅵ文化をめぐる問題（ジェンダー/異文化間ソーシャルスキル/アフリカでの家長/日本人らしさ）では、最近のトピカルな問題がとりあげられている。なお、菊池『社会化研究「序説」』（川島書店、2011年）はこの3冊の「外伝」である。